

'70

会報



THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

鶴岡ロータリー

第 583 号

1970.12.29 (火)

例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや

事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内 ☎ 5775

会報はご家族みんなで読みましょう

四つのテスト

—言行はこれに照してから—

1. 真実か、どうか
is it the truth?
2. みんなに公平か
is it fair to all concerned?
3. 好意と友情を深めるか
will it build goodwill and better friendships?
4. みんなのためになるかどうか
will it be beneficial to all concerned?

〆隔りを取り除こう〆

出席報告

本日の出席	会員数	63名
	出席数	46名
	出席率	73.02%

欠席者 阿宗君、荒明君、長谷川(文)君、林君、橋浦君、平田君、五十嵐(一)君、加藤君、金野君、三浦君、三井(健)君、斎藤(栄)君、笹原君、谷口君、佐々木君、辻君、藪田君

前回の出席	前回出席率	74.60%
	修正出席数	50名
	確定出席率	79.37%

マークアップ 安藤君—酒田東RC
五十嵐(三)君—温海RC
嶺岸君—鶴岡西RC

ビジター

足達一見君—鶴岡西RC

ゲスト

放上 博氏 (NHKアナウンサー)

スマイル

石井貞吉君 店舗改築竣功のため

会長報告

当クラブからクリスマスカードを贈りましたところ、各クラブから多くのクリスマスカードが届いております。回覧しますのでご覧下さい。ニューブランズ・ウィック即ち当クラブとの姉妹クラブからも届いており、これには例会場の写真なども入っております。それからオーストラリアのメインヒールドのロータリークラブからも会員一同のサインのあるカードが届いております。他に台中、高雄その他外国のクラブから届いております。

五城目ロータリーアクトの創立総会に出席して

三井 徹君

去る20日挙行された五城目ロータリーアクトクラブの創立総会に出席しましたので、そのご報告を申し上げます。

五城目ロータリークラブは結成5周年のクラブであります。五城目の町は、八郎潟の町と大体一緒になってクラブをつくっているようであります。八郎潟から車で20~30分入っ

た山手の方の人口約2万の町です。ロータークラブはチャーターメンバーが28名で現在の会員数が30名であります。町は木材と金物が特産とのことです。特に箆笥の名産地といわれております。

そこにローターアクトクラブが当地区の第1号として誕生して、発会式を挙行されました。会員としては、男性が26名、女性が10名合計36名の会員で発足しました。

そのつくり方を参考のために申し上げますと、教育委員長をやっておられるところの会員がおりまして、その方がクラブの方から卒業提唱し、クラブ会員が賛同して委員会をつくり、着々と盛り上げて行ったそうですが、クラブ全員がとに角1〜2名の候補者を推選するという行き方で会員を募ったとのことです。

その中核となった5〜6名の方が一生懸命に活動して、先に申し上げた36名の会員を纏め上げました。これは大変な成功だったと思います。その中には秋田大学の学生が数名交っております。外は全部高校卒あるいは大学卒の地域で働いている方々とのことです。

現在の会長に就いている方は、秋田大学の講師をやっている方で、25才の方ですが、この方が中核となって働いたように聞いております。非常に整然とした発会式で、会員諸君の落ちついた凛々しい態度が強く印象に残りました。今後の発展が期待されると思います。

ローターアクトクラブは、最近になりました、世界的に相当活発に設立増加しております。国際ローターでも非常に力を入れておりますので、私共も出来ればローターアクトを設立したいものと考えております。

以上ご報告申し上げます。

それからニューブランズウィックの市から私が先に行って参りました関係からクリスマスカードがきておりますので、回覧してお目にかけます。

三島事件と私

放上 博君 (NHKアナウンサー)

皆さんのお顔を拝見しますと、私の親父と同じ位の方々ばかりなので、この若造が何をほざくかという興味が多分あるでないかと思

います。しかし私は飽までも個人的な感じのお話をしたいと思います。

今日は、うちの局長がこの席に欠席しておりますが、どうして欠席したかということをかんぐって考えてみますと、現在労使間でベースアップ斗争をやっております。このような状態にあるので、昨日小花先生に会食は絶対ご遠慮する旨申し上げ、敢えてお供しておとり刀でかけつけたという訳であります。そのような状態のもとにおかれて、全く準備ができませんでしたので、とりとめのないお話になるかもしれませんが、お許しねがいます。

どうして私がこの席でお話することになったかと云うことからしなければならぬと思いますが、実は私が大変風邪をひきやすい体質であって、小花先生のところにしょっちゅうお世話になっていたのであります。

つい最近今月の始めと思いますが、酒を飲んだ折、その席で小花先生とバッタリ会いました。そこで小花先生は他のお客さんと基のお話をしておられたのです。私は基は全然わかりませんし、先生が何か一生懸命お話ししていらっしゃるのを片方でできながら独りで酒を飲んでおりましたが、一寸私の隣にきましてビールを差出して下さったのです。そこで日頃先生にお世話になっている放上であると申し上げましたら、いやわかっていただけの風なこと、それからいろんな話が出て、たまたま三島先生の話も一寸出ました。その中でこういう風な話が出たのであります。日本人魂というものは一体あるかどうかとか、またそれはどういう風なものなのだろうかというようなことを先生が一寸おっしゃいました。私も大変それには興味がありますので、いつか折があったら、そういう風な感じとか或はもやもやとしたものを感じとろうという方がいらっしゃったら、一緒にお話してみたいということを一寸先生に申し上げたのですが、それが今日はからずもこういうような立派な方々のお集りの中で、若輩の私がお話することになった次第であります。

もう一つ前提として、私がどうして三島由紀夫についてもものを話すのかということをおし上げておかなければならぬのですが、私ははっきり云いますと、今日本の中で信用出来る人間というのは、三島由紀夫しかいないのではないかと思うのであります。勿論総理大

臣も信用出来ない。つまり自分の言っていることと行っていることが全く同じであるという意味で、三島由紀夫は人間として素晴らしく尊敬出来るではないかという気持があるので。

私は非常に本が好きで、小学校の五年位から、そちらの方に入りまして、中学校の二年位から既に三島先生の本は随分読んできたつもりです。その中でいま、あの事件からさかのぼって、三島由紀夫という人はどういう人間だったんだろうかということを考えているうちに、人間というものは一体何だろうかというところに話が行くんじゃないかと私は感じとりました。

それで私と三島由紀夫の接点というものはそういう意味で、個人的なもので（即ち親しく薫陶を受けた間柄ではない）この点をはっきりとしてお話をすすめるべきではないかと思えます。

私が一番はじめに三島由紀夫を識りましたのは中学校2年と先程いいましたが、私は昭和16年生れで、恰度その頃潮騒という小説があって、（周囲1里位しかない小さい島でおこった男女の一寸した青春物語というべき感じのもの）あるとき映画に行き潮騒と別の映画をみに行ったと思うのですが、私は何の気なしに潮騒をみていて、当時SEXに目覚めたと云ってはおかしいのですが、その映画の青山京子という女優と久保明という俳優が、素裸でたき合ったシーンが出て参りました。

これは今でも覚えているのですが、なるほどこういう本なら読んでみようかと思ひ、中学2年生頃から三島先生の本を読み出したのです。そういった意味で潮騒という本は、私には一つのきっかけにはなり、決して傑作とは思っていないが、私にとっては、一番始めに三島由紀夫という名前を知りました。しかも映画でみたのもう一度読んでみようというところで読んだのが潮騒という本でもありません。

当時私はどちらかという虚弱児というとおかしいのですが、精神的にも、いい言葉で云えば繊細なのです。例えば人間は高いところにおると恐怖心がある反面、ここから飛び降りたらどうなるんだろうか、まかりまちがうとここから飛び降りてしまうんじゃないかというような意味からの虚弱性。もう一寸言葉を変えて云いますと、小花先生のところで

私はよく注射されるのですが、このときにこわくていやなんだけれども、みていないでられないという意味での虚弱性を持っていたのです。それは私がある意味では三島先生と肌と肌がびたりとくっついたような感じがするのは、その辺の虚弱性からきているんじゃないかという感がして仕方ないのです。

三島先生の場合には、或日一念発起してボデービルをやり、剣道をやり、ボクシングをやり、いろんなことをおやりになりました。私はそういう風な意識は全く三島先生とならべて云々するのはおかしいのです。しかし私はそこで野球をやりラグビーをやり手前の体を徹底的に傷み付けて、どこまでが限界なのかと自分自身の体の方を鍛えてきましたが、相変わらず風邪をひき易い虚弱性が残っております。そういう意味で、私は三島由紀夫の本については、何となく（私にはそういったものを書く才能は勿論ありません、それだけの立場にもない人間ですが）自分から言いたいこと、あるいは自分はこれはタブーだと思われることを堂々とお書きになつていらっしゃる。しかも責任をもって、というようなことで私は三島先生の本をあさるように読みました。

ここで作家論など論じても仕方ないと思いますが、簡単な整理をした系譜みたいなものを考えますと、仮面の告白というような小説がありまして、これはテーマは同性愛なのですが。仮面の告白で戦後の文壇に慧星のようにデビューしたといわれ、それから今でも代表作とされている金閣寺、なお金閣寺あたりから一寸社会性を帯びたようなニュアンスが出てまいり、「宴のあと」とか「網と明察」など可成り社会性（実はデビューのときには自己破滅型の私小説家だったものが）をおびてきたと思われまふ。自分自身では、そういう風なものを書くことすれば可成り政治的な色気もあつたのではないかと思ふのですが、何となく挫折感というものを感ず、それではという訳で、人間とは一体何だろうかという風なことで自分自身にもどって、自分自身がもうこの世の中ではとても自分の思っているようなことが実現出来ないというようなことになって、昭和40年に己れのライフワークだということで、天成輪廻をテーマにした「豊穠の海」という風なものを書き始めたと思ふのであります。それにつきましては最近可成り評

判になったので、すでにお読みになった方も多いと思います。私も「暁の寺」までは読みましたが、あの「天人五衰」は読む気がしないのです。

これは三島由紀夫が、私はこの小説をみるのは完結がこわいんだという、即ちそれが自分自身の完結でもあるのだとおっしゃっておいりましたので、私は本当は読みたいと思ながらも実は読む気がしないというのが今の私の心境なのです。小説の中で言論と行動が常に一緒であるというような三島由紀夫ですから、どこかに今回の11月25日事件のモデルがあったのでないかと思、さがすと出てくるのです。これは「憂国」といい、いただいた会報をみせていただく池内先生が書いておられますが、「憂国」にしてもそうですし、「豊穡の海」の第2巻の「奔馬」という小説がありますが、その中で飯沼少年というテロリストが割腹をする場面があり、割腹することにより自分自身を完成したといい、自分自身の生きる途に終止符をうったという可成り具体的に切腹の状況が出てきます。そんなあたりも11月25日事件と関連があるでないかという感じがいたします。

私は11月25日にこの事件を知りましたのは家が東京にあり、たまたま東京に行っておりました、その日のいなほでこちらに帰ってこようとしたときに、お昼のニュースをみようとなりました。NHKのニュースでしたが可成りめらめらの状態であり、最初はまさかと思ったのですが、少くともあれだけさかいでいるのだから本当だろうと思、出発の2分前までテレビをみ、しかもトランジスタラジオをもって汽車の中できいてきたのです。とにかくあのときに、いろんな方が、いろんなことをおっしゃいました。

しかし私はくるべきものがきたという風な感じで、大変寂しい感じもしましたし、またやってくれたのであったという感じもありました。

あれにつきましても、佐藤総理が何を言ったとか、中曾根防衛庁長官がどういう風なものを言ったとか、益田総監が何を云ったとかいろんなことがありましたが、あの事件をどういう風に捕えるかということで可成り物の言いようがちがってくると思うのです。大方の方々はある一つのハプニングといいますが、特に今の日本人というものは、はっきり

言いますと、実体がない繁栄の中でぬるま湯にひたっている人間が多いので、一つのハプニングであったと、面白い出来事だったという風な、云って見れば社会的な事件であるという風にとられた方が大多数だと思うのであります。こういう方が三島由紀夫事件について、果して本質をついたかどうかということとは全く問題だと思、要するに白屋堂々乱入したという風な表現も使っておりますがあれは乱入ではないと思、

乱入をしたとか、腹を切る即ち生命を粗末に扱うのは人間本来にもどるものであるという風な物の言いようもあるでしょう。さらには、日本は今や経済繁栄国で、殊にかけて第二次世界大戦をはじめたような、そういう風な動き即ち、軍国主義復活調みたいなものが芽生えるでないかという風なことや、腹切をやったということで、しかもそれが日本で最高の人間であったと、世界的な人物がそういう風なことをやったということで、世界的な影響をおそれるような論調とかいろんなことがありました。

私はNHKにおりながら、NHKに批判的なこともよく言うんですが、あの日の特集番組でNHKに岡村和夫という解説委員がいるのですが、岡村和夫と有馬頼義さんと、中村光夫さんと、草柳大蔵さんが座談会をやりました。あの中で、岡村和夫はこれは絶体に社会的な事件であるということで司会をしていらっしゃるかもしれませんが、有馬さんは、さり気なく、しかも可成り強調して何故こういう風なことをおこしたからと云って、今まで三島先生とも云い三島さんとも云ったのを呼び捨にするのかと、これだけは僕は許せないんだと云っておられました。つまりあそこでもって、ある意味であれを犯罪とか、そういう風なものではなくて、もっともっと人間の活き方というものはどうなのか、うらを返せば人間の死に方とは一体何なのかという風な捕え方、つまり三島由紀夫という、私という一つの体験的なものだったんだという風に捕えた方というのは、多分あの事件に関してはまともな評価をなさっているのではないかと、そういう風な気がいたします。ですから有馬さんとか、作家連中がものを言ったときにはほぼまちがいがいい。

つまり三島由紀夫事件を肯定するにせよ、否定するにせよ、まちがいがなく正論をついて

いるのではないかというような感じがいたします。

私自身は実はくるべきものがきた、ほっとした反面、実に寂しい思いがしたと言うのが本当の実感なのですが、多分あの翌日の毎日新聞に出ていたとおもいますが、遠藤周作さんがこういうことをおっしゃっておいりました彼の死は国会議員になるよりも、清潔で、なおかつドラマチックな死であったと。これはいろんな含みはあろうけれども、一番まちがいのない表現ではないかと私は信じております。

三島由紀夫の本を沢山読むと、小説家であるから小説を書くのが当たり前で、それが即ち三島由紀夫であるという、即ちイコールであるという作家は少いのですが、少くとも三島由紀夫の場合はイコールとみてもいいと思います。逆に言いますと夜の銀座あたりに行って、女の子とたわむれて、女の子のくどき方などを書いて我は文士でございという風な顔をしながら実は本人は全くもてないとか、想像で物を書いている人間とちがって、自分の書いたものと自分の行動とはイコールであるという風なとらえ方をするとき、私は先程言ったようにくるべきものがきたと感じると同時に、あまりにも無責任であったでないかというような、もう一寸なにかしてほしかったという願望と同時に、あれはあまりにも無責任ではないかという批判も出てくるでないかと思うのであります。

今三島由紀夫を語り、なお且つなくなつてから一カ月一寸たった時点で、改めていろんな面からみてみますと、彼は可成りの行動をしているということがわかります。

この間出ましたサンデー毎日の特集号で、三島由紀夫の総括という本が出ました。その中で石原慎太郎氏と毎日新聞の紙上で論争をいんどたか、或は体験入隊した自衛隊のあとの感想インタビューとか、一寸した自分の評論とか、何かさりげないところに彼のいろんな云いたかったことが出てくるでないかと思えます。自分は小説家だから政治のことはわからないとか、そういう風な無責任な言い方ではなくて、今の政治に入ったところで、しょせん、自分は何も出来ないというようなことが伶俐な方ですからわかっていたと。それを何とかして別のところから何か言うことが出来ないか、小説家ですから政治のことは

素人です。そこで考えたのが人間の生き方、人間の死に方とは何だろうかと、そういう風なことを皆が考えれば、そしてそういう風な常に意識をもちながら生活をしていけば、政治だってこんなに悪くならないでしょうし、公害も起こらないでしょうし、つまらない事件も可成り減ってくるでないかということでも、いろんなところで苦んだでしょうけれども、また実際に行動も起してきた方だと私は考えております。

池内先生のお書きになった中に、吉田松陰が小塚原で亡くなったのは11月25日であるというようなお話が出て参りました。私はどなたにも云ってないので、或いはこういったことを言えば叱られるかもしれないが、吉田松陰という方は私も大好きですが、可成りきちがいじみた点もあったでしょうし、アナーキスト的な面もあったと思いますが、少くとも教育者だったと思います。松下村塾をつくったとも言ふし、かつ子弟を育てたという意味で教育者だった吉田松陰は、ああいう形でなくなったという。それから明治維新を経て、日本人がいろんな体験をしながら、今吉田松陰については教育者というよりも思想家という風な言葉におきかえていると思います。

吉田松陰の種々なものについて分類すれば思想家吉田松陰と云うようなことになっていると思います。何故思想家になったかと云いますと、吉田松陰の教えを受けた方が明治維新でも大いに活躍しました。そういう風な教えが可成り具体化したと。その精神的なバックボーンになったのは吉田イズムであったという風に考えるからこと思想家であるという立場が許されていると思うのであります。

私ははっきりここで言いたいのは、三島由紀夫は、あの死によって小説家から思想家になったのではないかと、思想家にするのは誰であるかというに残されている我々ではないかという感じがしてならないのであります。

これは自衛隊に乱入せよとか、憲法を改正せよということではなく、日本人として、人間として、どういう風に活きたらいいのかとあの方は、可成り抵抗を込めて、可成り皮肉な意味で日本の作家なんてものは、どういう風に活きたらよいかということばかりを教えていると、自分はどういう風に死んだらいいかということ、いつかみせてやるということを書いておられました。

そういう風な意味で私は、彼が「豊穡の海」を書く以前から可成り思想的なものであったと。楯の会をつくったのも、云ってみれば思想的なものであったのではないかと今あの事件が終ったあと、いろいろな意味でジャーナリズムがいろいろなネタをとばしております。中には可成りひどいんじゃないかというようなことも書かれております。女性週刊誌、週刊明星とか、週刊平凡とか、芸能雑誌にも書かれておりますが、せめて私は今年の十大ニュースの中で三島事件をトップにおくなどということを目撃新聞でやっておりますが、そういう風な見方ではなくて、もう一寸本質的なものを見て欲しいような気もするし、私も一寸言葉が出てきませんし、やはり準備しておりませんのでとりとめのない話になって申訳ありませんが、少くとも彼は思想家になったのだと、思想家にしなければならぬのだという風な意識をもっていろいろなものをみていただきたいような気がしてなりません。

これにつきましては可成りの反論もあるかと思しますので、若し何かございましたらどうぞ御発表ねがいます。満足にお応え出来るかどうか分かりませんが、以上大体自分で感じましたことについてはお話ししたつもりであります。

以上のお話の後、小花さん、津田さん、張さんから質問が出され、これに対し放土氏から懇切なお答がありました。

幹事報告

会報到着

新発田 RC、会津坂下 RC、石巻東 RC

高島 RC、郡山 RC、尾花沢 RC、

鶴岡西 RC

例会変更

鶴岡西 RC 1月1日 規定により休会

八戸北 RC 1月2日休会

1月9日 PM5.80 新年家族会

クリスマス家族会のスナップ写真

今日中に申込 @90円

元鹿兒島西 RC 鮫島志茂太氏より同氏著書『日本でいちばん好かれた男』(著名入り) 10冊贈られてきたので輪読したい。

鶴岡市交通安全都市推進協議会会長白井重磨氏から、各職場にも行っていると思います

が、年末年始の交通安全運転についてという文書が入っており、特に飲酒運転をしない、させないことを守り、守らせて呉れるようにとの要望、雪路には車輪にはチェーンの着用、駐車ルールを守ることなどの要請を受けていること。会員の職場で徹底せられたい。